

かけがえのない時間

<今月の聖句> 「ひとりの男の子がわたしたちに与えられた」
(イザヤ書9:5)

明るい日差しに照らされながらも
頬をかすめる風に、心と冬の冷たさを感じる季節。
今日も園庭は友だちと語り笑い合う子らの声がこだましています。
ある子らは砂あそび、別の子らはかけっこ、あるいは木の遊具…
それぞれの「楽しそう」が響き合い、やがて交じりあい
その時々、唯一無二、かけがえのない豊かな時間が流れ始めます。
心から愛されている実感とともに、思いをまるごと受け入れられた
子どもたちの笑顔は、はじけるような輝きをたたえています。

先日、保育参加を終えられた保護者の方がこんな話をしていました。
「何も言われてないのに、子ども自ら進んで片付けたりしているんです」
家では見せたことのない姿に、とても驚いた、とのこと。
心を存分に解き放ち、そのときの遊びに十分満足できた子どもは
大人の指示や命令がなくても、いやむしろ、それらのないほうが
日々の楽しい生活の流れの中で、自然と心も体も動いていきます。

さて、ここで先週の話のひとつ。
いつも見ている園庭の光景と思いきや、その日はどこか違いました。
子どもたちの身体がみな、ひと回りずつ大きくなっている! ?
そのはず、教会の収穫感謝礼拝に卒園児たちが来てくれたのです。
それぞれ懐かしい場所に戻り、昔と同じように友達と遊んでいると
ある子が「つださん、ちょっと来て、なんか、おかしいんだよ!」
手をつないで行った銀杏の木にするすると登り、梢から顔がのぞく。
「すごいじゃない、そんなに高く」と下から声をかけると
「いや、前はもう一段上の枝まで登れたんだよ。でも今は登れない」
「それは君のからだが大きくなったからじゃないかな」「そうかなあ」

この子も心と体でつくしの生活をまるごと受け止めてくれていた。
そう思っていたら、なんだかとても嬉しい気持ちになりました。

(つくし保育園園長 つだかずお)

※来年度に向けて入園申込が始まりました。当園にご興味のあるお知り合いが
おられましたら、ご紹介お願いします。随時の入園もご相談に応じます。